



ご挨拶

昨年のは、暖かく穏やかな年明けでしたが、早々から新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という、未曾有の禍に直面し大変な1年でした。それは新たな年になっても収まる気配は無く、緊急事態宣言が再び発令され、予測不能な状態が今も続いています。しかし、決して悲観することはなく、ようやくワクチンも開発されてコロナに負けない明るい希望が見えてきました。今年は延期された東京オリンピックも開催されます。新たな希望を胸に抱き、良い年にしましょう。

【2021年 明けましておめでとうございます】

新年早々から大雪となり、雪の中でお正月を迎えましたが、これが久斗山本来の冬の姿だと思います。

初日の出は拝めませんでしたが、町内の上山高原からのご来光をお届けします。本年もよろしく願いいたします。



2020年12月27日、午前7時半すぎ。上山三角点(標高946m)の肩から昇る朝日。

【雪の中でとんど焼き】

お正月は連日雪かきばかりして、ゆっくりできなかったけど、そのお正月も終わり、7日の早朝に正月飾りを燃やす「とんど焼き」が行われました。場所は大杉神社の参道横の広場奥で、前日の午後、村人が総出で準備にかかりました。

ここ数年雪が少なかったけど、今年は1m近い積雪があって、まずは除雪から取りかかりました。事前



前日にとんどの準備

に開けてある4つの穴に枝付きの木を立て、1mぐらいのところに横木を針金で括って、飾りを載せる棚を作ります。手の空いた人は、大杉神社の境内の石段の除雪をしました。7日の朝は、午前6時に持ち寄った飾りに火が着けられました。最初は少し燃え付きが悪かったけど、やがて大きく炎が燃え上がりました。火の勢いに書き初めの習字を飛ばして高くまで上がると字が上手になると言われがあり、小学6年の中村さんが飛ばしました。例年より飾りが少ない感じが、火の勢いもすぐに小さくなりましたが、それでも習字は高く上がりました。きっと上手になるからね。



【池ヶ平 安泰寺の冬の暮らし】

年末年始は托鉢でお留守だった安泰寺(曹洞宗)さんが、15日に帰ってきておられるということで、冬場の生活を伺いにお邪魔してきました。ツツライ口の県道分岐から、お寺のある池ヶ平までの約4kmの町道は、冬場は除雪してないので徒歩で行くしかありません。

積雪は多いところでは1m以上あり、かんじきを着けて歩きました。約2時間で安泰寺に到着。中村住職さんをはじめ、ドイツやグルジアから来てる修行僧5人、そしてNHKの取材班が出迎えてくれました。



冬場は、雪で農作業もできず日々、座禅と教学で充実した時間を過ごしているそうです。なお、NHKは2月初めに放映。



【数珠く〜りなんまいだ〜】

これまで子供たちだけで家々を回っていた数珠くりですが、昨年からは老人や村の人と一緒にふれあいセンターに集まり、



数珠くりの行事を行っています。今年も16日(土)に大人と子供25人が集まりました。全員コロナの感染対策のためマスク着用。大数珠も度々消毒し、交代で数珠を回しました。悪疫退散！房が廻ってくると体の悪い箇所当たって、心から健康を願いました。

【この大雪、シカも難儀してます】

元旦は朝から雪が降り続き、ずっと家で過ごしていたんですがふと視線を感じて窓の外を見ると、裏山から牡シカがじっとこちらを見ていました。この大雪で食べるものも少なく、木の皮まで嚙っています。シカもこの冬は辛そうです。



恨めしそうにこちらを見る牡シカ

○令和3年 2月の行事

3日(水) 節分 豆まき

14日(日) バレンタインデー

14日(日) 「かんじきハイキング」 (9:30~15:00 上山高原エコミュージアム)

21日(日) 久斗山自然教室「野生動物の足跡さがし」(10:00~13:00久斗山公民館)



NPO法人上山高原エコミュージアム

かまくらまつり

○とき: 令和3年2月13日(土)

13:00~15:00

○会場: 上山高原ふるさと館

○内容

- ・「かまくら」でくつろぎ体験
- ・雪だるまつくり体験
- ・雪上すべり台
- ・ぜんざい無料サービス
- ・雪上体力挑戦
- ・お楽しみ抽選会

【申し込み・問い合わせ先】

「上山高原ふるさと館」

新温泉町石橋757-1

TEL:0796-99-4600 FAX:0796-99-4601



ホトケノザの花のアップ

今月の野草

ホトケノザ

春先、日当たりのいい田んぼや畑の畦などに、時に大群生します。十センチほど伸びた茎の先に、赤紫の首を伸ばしたような形の小さな花を咲かせ、下に伸びた唇には濃い斑点があります。春の七草にこの名前があります。が、そっちはキク科のタビラコのこととで別物。こっちはシソ科、でも食べられません。

雪山の怪異

死んだ友の気配(第一話)

作、いっこう

ちよつと昔の田舎では、川で捕った魚や、山で罾にかかった野生動物が貴重な蛋白源でした。裕太の祖父は、そんな川の魚や雀などの野鳥、野兎などの小動物を捕まえるのがとても上手でした。裕太は小さい頃から祖父にくっついて色々狩りの方法やコツを教わりました。

たといえば、冬場は魚たちは深みの底や岩陰、大きな石の下でじっとして待っています。その魚を手作りの直径二尺ほどのたも網を下流に受けて魚を追い込む時、長い竹の先にシュロの毛を括って水の中を突くようにすると、魚は鼯鼠と間違えて慌てて網に追い込まれるとか。

たといえば、冬場は雀などの小鳥は群れています。竹のざるを紐のついたつかえ棒を立て、その下に米などを撒いて、それを小鳥が食べに来たときを見計らって紐を引いてざるをかぶせて捕まえるのです。一晩焼酎に漬けておいた米を撒くと、食べた小鳥が酔っ払って、すぐに飛び立てず捕まえられるとか。

たといえば、冬場は雪の重みで竹が曲り、葉のついた枝が低い場所に垂れており、そこに野兎が葉を食べに来ます。針金を輪にした「わさ」と呼ばれる、兎が首を突っ込むと輪が絞まる罾をしかけておくのと、簡単に野兎を獲ることができるとか。

裕太はいつか自分だけで野兎の罾を仕掛けてみたいと思い、あんなに雪の多い冬に、近くの竹林にわさ仕掛けをしました。それを自慢げに祖父に話すと、子供が仕掛けが尻に兎がかかるようじゃあ、死